

[ゲンロク]

2022
MAR
No.433

3

定価 1100Yen

GENROOQ CAR OF THE YEAR

2021-2022

注目の12台を徹底検証



メルセデス・ベンツ 特選ショッブ

最新プレミアムSUVの競演

新型レンジローバー考察

新型ジープ・グランドチェロキー / テスラ・モデルY

ベントレー・ベンテイガHV vs ベンテイガ V8

BMW iX vs アウディe-tron / ジャガーEペースPHV vs ボルボXC40リチャージ



10本ツインスポークからなるメッシュパターンを持つHF-LMC。スーパースポーツ勢からSUVにまで似合う秀逸なデザインだ。強度的や剛性的にも理にかなっていて、P.C.Dの許容幅も大きいことから、このLX570に装着したような24インチまで存在する。タイヤサイズは305/35R24だった。



繊細な造形に内包される

ニッポンの底力

レクサスのフラッグシップSUVがいよいよ新型へ。ひと足先にデビューしたランクル300と共存するかたちでLX600がデビューした。今作も世界のハイブランドと肩を並べてプレミアムSUV界をリードする存在になりそうだ。

鮮度抜群のLX600に注目が集まるなかであって、いま一度LX570も見直してみたい。日本への正式導入こそ2015年だったが、海

外を含めると14年もの長きにわたり現役を務めあげた長寿モデルである。威風堂々とした姿カタチとタフなメカニズムは折り紙つき。たとえLX600が出たからといって、その鮮度が失われることはない。いまだに貴重な存在となった5・7ℓもの排気量を持つV8エンジンだってLX570らしさだ。きつと歴代ランクルのように、あるいは歴代Gクラスのように、未来永劫、モデル固有の

HYPER FORGED HF-LMC for LEXUS LX570

PRICE LIST

HYPER FORGED HF-LMC

19インチ (7.5J～14.0J)	15万8400円～21万6700円
20インチ (7.5J～15.0J)	17万5000円～23万5400円
21インチ (7.5J～14.0J)	23万5000円～28万1600円
22インチ (8.5J～14.0J)	24万6400円～38万3900円
24インチ (9.0J～12.5J)	32万4500円～42万1300円

※令和4年3月1日より表記価格から変更されます。
最新情報はホームページにてご確認ください。



足もとをHF-LMC 24インチに置き換えるだけでLX570はより新鮮な表情となり、たくましさや繊細さが強調される。新型としてLX600が登場した今となっても、LX570はずっと色褪せないと思わせるパッケージである。

魅力が宿り続けるだろう。

さらに、その足もとを変えるだけでLX570の魅力はさらに際立つことを知った。福岡で活動するECスベックが提案したこの1台、全身ブラックで引き締められたボディを支えるのはハイパーフォージドのHF-LMCだった。2020年にデビューするやいなや、車種、カテゴリー問わずに瞬く間に定番へとのぼり詰めた人気作である。

高品質なメイド・イン・ジャパンの鍛造製法を活かしたかのような鋭利な10本ツインスポーク（メッシュ）が特徴となる。ハイパーフォージド製センターキャップを起点にスポークが浮かび上がり、そこからポルトホールを避けるようにリムへ向かって二手にわかれ、その先でさらに分割するような形状を持つ。スーパースポーツからSUVにまで似合うデザインだと思ふ。

なおかつHF-LMCは、ハイパーフォージドの定番ラインナップである19～22インチという範疇を飛び越えて、24インチまでが設定されている。このLX570は問答無用で24インチである。前後とも10・5Jで、305/35サイズのピレリ・スコルピオゼロ・アシメトリコを組み合わせていた。LX570の純正は20インチ、オプションでも22インチ止まりだから、さすがにその存在感を強く訴えかけてくる。フェンダー幅いっぱいまで張り出した姿がたくましく、スクエアフェンダーとのバランスもいい。純正スタイリングで垣間見える腰高感が見事に解消されている。

それでも、過度なまでに大きく見えないのはLX570自体のサイズ感によるものか。色味をボディカラーと合わせたことも手伝って、どこにも違和感のない仕上げだと思える。なお、ディスクはグロスブラック、リムはアナタイズドブラック（クロス）と微妙に質感を違えている。色味は黒で落としたとしても、スポーク自体が鋭利な造形を持つので、光の反射によって、さまざまな表情を訴えかけるのはい。シンプルながらコディネートながら、ふとした時に輝きを放つ。黒光りするボディや、さらびやかなレクサス流スピンドルグリルとも調和していた。

さらに特筆すべきは、車両重量2680kgにして、実使用状態では3t近くなるだろうヘビー級を、難なく受け止める強度や剛性、さらに長期的な信頼耐久性が備わっていること。だからこそ24インチにして、さらにLX570やランクルに対応する巨大なP.C.D（51150）まで用意したのだろう。

アメリカン鍛造ホイール系を筆頭に、世の中にはいかにもオフロードっぽい造形を持つホイールがたくさんある。しかしHF-LMCの24インチは、これだけのサイズと耐荷重性能を持ちながら、繊細でエレガントな造形であることが魅力だと思ふ。世界中の僻地で活躍するタフなオフロードでありながら、そこにプレミアム性までをオントップしたLX570の方向性とも一致していて、両者は抜群に似合っていた。これこそメイド・イン・ジャパンの、その最高峰コラボである。

